

# 高温年は「カメムシ類防除」+「水管理」の徹底で さらなる品質向上を目指そう！

## 1 コシヒカリの生育状況と今後の気象予報

7月30日現在 コシヒカリの生育状況

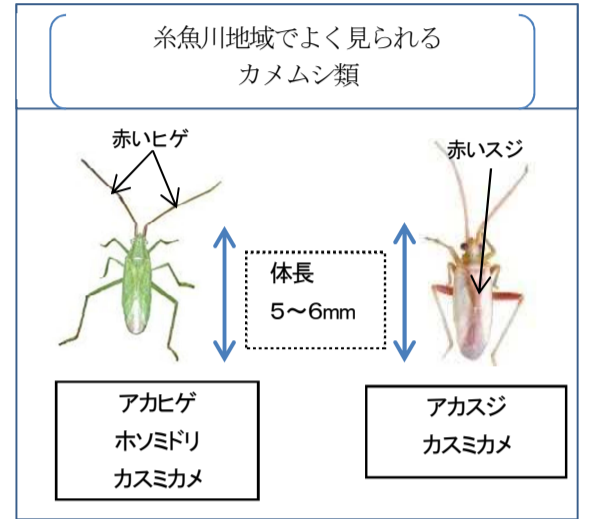
- ・出穂期は平年より早まり、5月連休田植のほ場で8月1日頃の見込み。
- ・高温の影響を受け、穂肥をしても葉色の上昇が鈍く、一般的に指標値より低くなっている。

新潟地方気象台1ヶ月予報 (7月26日発表)

- ・向こう1ヶ月の気温は高くなる見込み。
- ・また、晴れの日が多く、降水量も少ない見込み。

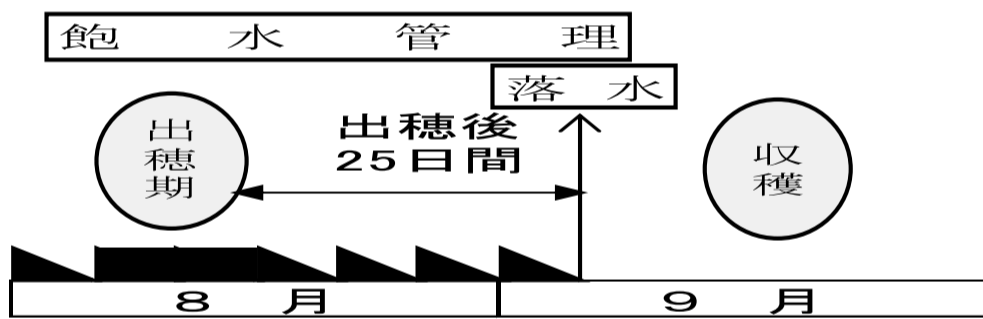
## 2 カメムシ類防除 ～高温年は被害が多い傾向、穂揃い期に必ず防除を～

- (1) 防除の必要性
- ・農産物検査の等級基準では、被害粒が玄米1,000粒中2粒あると2等に格落ちします。
  - ・カメムシ類の被害が多発すると、色彩選別機に1回通しただけでは取り切れなくなります。複数回の色選は「肌ずれ」での格落ちにつながり、さらなる品質低下の要因となります。
- (2) 防除の注意点
- ・穂揃い期に薬剤防除を徹底しましょう。また、粒剤を散布する場合は、3cm程度の浅水にして散布してください。
  - ・カメムシ類のほ場侵入を減らすため、ほ場内のヒエやホタルイなどの実の着く雑草を除去しましょう。



## 3 出穂以降の水管理 ～早期落水による水不足は登熟不良や倒伏を助長！～

- ・稲は水と共に土中の窒素を吸収するため、水不足になると登熟不良による白未熟粒の多発生や枯れあがりによる早期倒伏を助長します。
- ・出穂後25日間は、ほ場に湿り気がある管理(飽水管理)を行ってください。
- ・高温時は意識して水の入替えを行い、稲体を冷やしてください。熱い水を長期間張っていると、根が弱り栄養凋落につながります。
- ・また、フェーン時は品質低下を防ぐため、田面が湿っている状態でも、可能な場合は速やかに湛水しましょう。



**[飽水管理のやり方]**

- ①排水口を止める
- ↓
- ②水深2cm程度まで入水
- ↓
- ③足あとに水がたまる程度(左)まで水が減ったら再度入水

※水が減らないほ場は3日程度で落水してから再度入水

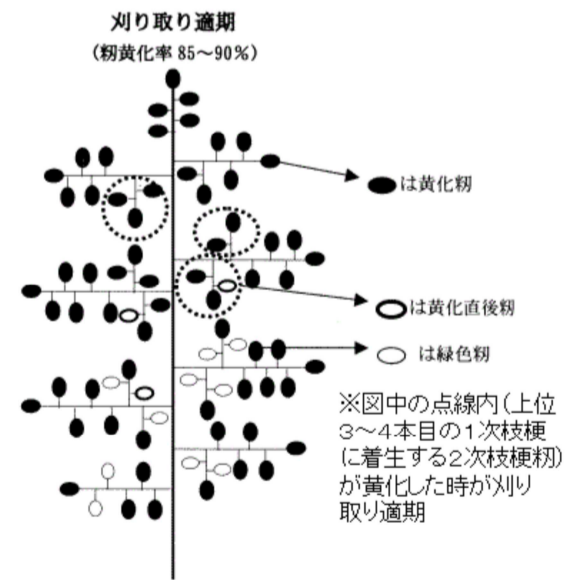
## 4 収穫判断

- (1) 収穫適期の判断方法
- ・収穫適期は、黄化した籾の割合が85%～90%ぐらいになった頃です。
  - ・「出穂日からの積算気温」(コシヒカリ1,000℃、早生品種975℃)でおおまかな収穫日の目安をつけ、最終判断は「籾の色」で行いましょう。
  - ・出穂後の気温が高い年は、刈り遅れにより「基部未熟粒」「背白粒」「胴割粒」等が増加しやすくなるので、積算気温で50℃程度(平場で2日ほど)早めに収穫してください。

### (2) 出穂期と積算温度から見た、品種別・地域別の収穫期のめやす

品種別出穂期	こしいぶき				コシヒカリ			
	7/26	7/29	8/1	8/3	8/6	8/9	8/12	
成熟期	糸魚川地区							
予測	9/2	9/5	9/8	9/12	9/15	9/19	9/23	
	能生地区							
	9/3	9/6	9/9	9/13	9/16	9/20	9/24	

※成熟期予測はアメダス地点における平均気温の平年値を積算した値から予測したものです。ただし、出穂後に高温気象となった場合は、予測より成熟期が早まる恐れがあります。



籾の黄化状況と刈り取り適期

## 5 農作業事故の防止 ～急ぎ・あせりは事故の元～

- ・昨年度、糸魚川地域では収穫時期に大きな事故が多発しました。以下の4点を特に気をつけて作業をお願いします。
- ①余裕を持った作業計画を組みましょう。 ②コンバインのつまり等の修繕は必ずエンジンを切ってから作業をしましょう。
- ③ほ場の危険箇所(急な乗り入れ等)を確認しておきましょう。 ④作業者と作業補助者が声をかけあい、連携しましょう。

『収量・品質向上！糸魚川産米』 JAひすい「コシヒカリBLエコライス栽培」に取り組みましょう。	お問い合わせ先	ひすい農業協同組合(営農部)	TEL 0120-640-184
		糸魚川NOSAIセンター	TEL 0120-916-406
		糸魚川地域振興局農林振興部 (農業普及指導センター)	TEL 553-1906